

第2節 人間の定義と人間が創り出す社会

人間とは何か？

この問い合わせに対する答えは、おそらく人間の数だけある。この節では、人間の法的、生物学的、神学的定義を示し、説明する。

2-1 法的定義

法律上の人間とは、出生時に地方自治体で出生が登録され、A氏がB氏と結婚した時に地方自治体で婚姻が登録された人間（A氏とB氏）と定義される。A氏が死亡した時点で、その死亡が地方当局に登録される。これでAさんの人間としての法的存在は終了する。

法律は、権力者によってどのように整備され、適用されるかによってかなり異なる。

例えば、第二次世界大戦後、戦勝国によって作られた国連が作成した国際法は、自国の利益に反すると簡単に反故にされ、自国の利益が優先された。

人間の法的定義は普遍的なものではない。法のあり方は統治する者の価値観に左右される。現実の社会は、こうした法的定義に従って動いている。

2-2 生物学的（科学的）定義

生物学では、46本の染色体を持つ生き物が人間であると決められている。48本の染色体を持つサルはサルであり、サルは人間にはなれない。人間は、この世に生を受けた時点で、そのように認識される。呼吸と脈拍が止まり、瞳孔が開くと、人は死んだとみなされる。肉体は自然の中に消える。

遺伝子染色体には、個々の生物が形成されるための設計図が含まれている。生物はこの設計図に従って形成される。すべての生物には「種の存続と保存」のプログラムが含まれている。

哺乳類の場合、生存には依存と自立の段階がある。成熟すると、生殖段階と種の保存段階（宿主段階）がある。

人間も動物と同じように「種の存続と保存」のプログラムに従つて生きることになっているが、前頭前皮質は動物の3倍の脳細胞を持ち、人間特有の活動を行うことができる。

2-3 人間の神学的定義

これは聖典に記されている人間のビジョンである。聖典では、モーセ五書（創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記）、新約聖書、コーランに記述されている。

2-3-1 神は人間を創造された

神は人を神のかたちに、男と女に創造された（創世記1:27）。

神である主は、土のちりから人を造り、その鼻孔に命の息を吹き込まれたので、人は生き物となった（創世記2:7）。

それは、人がパンだけで生きるのではなく、主の口から出るすべてのことばによって生きることを、あなたがたが知るためである。（申命記8:3b）。

あなたがたを粘土から創造されたのは、主である」（コーラン6:2）

かれらを男と女とに創られた」（コーラン75:39）

わたしの命の息を吹き込まれた」（クルアーン15章29節）

神は人間に命の息（神の言葉）を与え、人間は生き物となった。

2-3-1-1 人体の形成

人間の身体は、土から吸収された養分によって構成され、発達する。肉体の成熟は次のように定義される：「あなたがたのからだは、あなたがたが神から受けた聖霊の宿る宮です。（1コリント6:19）

生物学的には、肉体が成熟するには約24～25年かかる。前頭葉は、私たちを人間たらしめるものの多くが存在する場所だ。運動から知性に至るまで、あらゆる役割を果たし、行動の結果を予測し、将来の行動を計画する手助けをする。進化の過程で最も新しく、そして最後に発達した前頭葉は、非常に柔軟であるとともに、人間の特徴の発達に伴うダメージを受けやすい。

前頭葉は脳の中で最も成熟が遅く、20代半ばまで神経細胞の結合が作られたり切断されたりする。つまり、人生の初期に脳に損傷を受けると、前頭葉は特に傷つきやすく、行動や認知に生涯にわたって影響を及ぼす可能性がある。

一方、動物のような生殖能力は、大脳辺縁系の働きのおかげで14歳頃から可能になる。

2-3-1-2 人間の心の形成

人間の精神は言葉によって形成される。人は「いのちの息」(Gn. 2:7)によって生を受けたと言われるが、「いのちの息」とは「神の言葉」である。だから、人は神の言葉によって生きる。

「わたしの言葉を聞き、わたしをお遣わしになった方を信じる者はだれでも、永遠のいのちを持ち、さばきを受けることはなく、死からいのちへと移される。まことに、まことに、あなたがたに告げますが、死人が神の子の声を聞く時が来て、聞く者は生きるのです」。(ヨハネ 5:24-25) みことばには命があった (ヨハネ 1:4)。

わたしは父(神)のうちにおり、父(神)はわたしのうちにおられる」(ヨハネ 14:10) 「あなたがたの天の父が完全であるように、あなたがたも完全でありなさい」(マタイ 5:48)。(マタイ 5:48)。

コーラン 2:30 によると

あなたがたの主が天使たちに言われた。人間は地上における神の代理人でなければならない。

2-3-2 人間の使命と責任（命令形で書かれている）。

神は人間を祝福し、こう言わされた。

「そして、海の魚、空の鳥、地の上を動くすべての生き物を支配せよ」（創世記 1:28）。

「主なる神は人に命じられた： 園にあるすべての木を食べてもよいが、善惡を知る木は食べてはならない。（創世記 2:16-17）

実を結ぶとは、成熟した完全な人間になること。

殖えるとは、人間が家族を作り、子供を産み、その子供が世界中に広がること。

従わせ、支配する」とは、人間が万物に名前をつけ、それぞれの価値を認め、共存共栄することである。

これは神から人間への重要な警告である。ここから、人間は自らの行動に責任を持つことになる。神から見れば、人間と動物の違いは明らかである。

2-3-3 聖書における「生」と「死」の定義

人間が神の言葉を受け入れ、神とともに生きている状態を「生」という。

人間が神から離れ、神の言葉を受け入れない状態（人間が堕落した状態）を「死」という。

2-3-4 人間創造の目的

世界最古の文献であるユダヤ教の聖典 TNK によれば、神が人間を創造された目的は、「神は人間と共に住み、人間は神の民となり、神ご自身が人間と共にいて、その目からすべての涙を拭い去られる」とあるように、神が人間と共に住み、共に喜怒哀楽を経験できる家族のような関係を望まれたからである。（モーセ五書の創世記と聖書の最後の書、ヨハネの黙示録 23:3）。

神がなされたすべてのことをご覧になると、それは非常に良かった（創世記 1:31）。

主なる神は人を取ってエデンの園に置かれ、彼はそこを耕し、それを守った（創世記 2:15）。

主なる神は、地から野のすべての獣と空のすべての鳥を造られ、それらを人のところに連れて来られた。人がすべての生き物につける名は、自分の名であった（創. 2:19）。

見よ、神の幕屋は人と共にあり、神は人と共に住み、人は神の民となり、神ご自身が人と共にいて、人の目から涙をことごとく拭い去られる（黙示録 21:3）。

敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。そうすれば、あなたがたは天の父の子となる。… 48 それゆえ、あなたがたも、天におられるあなたがたの父が完全であるように、完全でありなさい」（マタイ 5:44）と弟子たちに教えられた。

コーラン 2 章 30 節によれば、人間は地上における神の代理人である。

これは聖典に記されている「神が人を造られた創造の目的」である。つまり、人間は神の戒めを守り、天の父が完全であるように完全な者とならなければならない。そうすれば、人間は地上における神の代理人となり、万物を支配するようになるのだ。

実際、「神はエデンの園で人とともに住まわれた」（創世記 2:19）が、人が神の教えに従わず、悪魔の言葉を信じて墮落したため、神と人との関係は崩れ、墮落した人はエデンの園（神の国）から追放され、悪魔の子として生きることになった。（ヨハネ 8:44）。